



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
4/17 (月)	+ 400	+ 7,300	+ 7,700	国庫短期証券発行・償還 (3M) 個人向け国債発行・償還 各種財政資金の支払い	CP等買入 ▲ 300 社債等買入 ▲ 100 補完供給 + 43,200	国債買入 + 17,400	
4/18 (火)	トシ	+ 2,000	+ 2,000				
4/19 (水)	トシ	▲ 5,000	▲ 5,000	流動性供給	共通担保オペ ▲ 8,300		日：鉱工業生産 (2月) 米：米地区連銀経済報告 (ページブック) 公表 欧：ユーロ圏CPI (3月) 英CPI (3月)
4/20 (木)	トシ	▲ 2,000	▲ 2,000	国庫短期証券発行・償還 (1Y)			日：日銀地域経済報告 (さくらレポート、4月)
4/21 (金)	▲ 2,000	▲ 10,000	▲ 12,000	国債発行 (20年)			日：全国CPI (3月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比▲2兆4,800億円の542兆9,900億円から始まった。11日の国債買入オペ、12日の国債発行などの変動要因があったが、週末14日の年金定時払いを主因に同残高は増加、548兆9,700億円 (速報) で越えた。マクロ加算残高に係る基準比率の大幅な引き上げの影響が続き都銀業態・地銀業態を中心に調達ニーズは底堅く、無担保コールON物は先週に引き続きマイナス圏下高水準で推移した。同加重平均金利は▲0.007%~▲0.006%のレンジとなった。ターム物は新積み期17日スタートの2W~1M物を中心に、主に▲0.020%~▲0.003%の水準で出合いが見られた。来週の主な予定は、国内では19日に鉱工業生産 (2月) の公表、21日に全国CPI (3月) の公表などがあり、海外では、19日に米地区連銀経済報告 (ページブック) の公表、ユーロ圏とイギリスのCPIの公表などが予定されている。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.020 ~ 0.020
2M	0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

足許GCは週初▲0.15%~▲0.12%の出合い。12日の取引では後場▲0.085%まで上昇した。その後は▲0.11%~▲0.095%のレンジで推移し、14日の取引では▲0.105%の出合いが中心となった。SC取引は2年438~447回債、5年149~155回債、10年350~370回債、20年180~183回債、30年65~77回債、40年13~15回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.01

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆2,400億円で、週間償還額 (約5,300億円) を上回った。発行市場は、5・10日発行と期明けの大型発行が重なり活況となった。発行残高は先週末時点の22兆3,734億円から13日時点で22兆6,986億円に増加した。発行レートは、0%から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。10日にCP等買入オペが予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート0.002% (前回同様)、平均落札レート0.011% (前回0.018%) と平均落札レートは前回比で低下した。

来週の週間償還額は、約5,700億円となっている。発行市場は5・10日スタート絡みの発行が続くことから活況を予想する。発行レートは、0%近辺での出合いが中心となるものの、発行期間や発行残高によりやや幅の広いレンジ圏での出合いを予想する。

<TDB>

14日の3M (1151回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1675% (前回債▲0.1860%)、平均落札利回り▲0.1816% (前回債▲0.1875%) となった。来週は19日に1Y、21日に3Mの入札が予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。